

癌の悪液質(やせてしまうこと)に対する新しい治療(GDF15)

御利用者様および御家族様には、日頃大変お世話になっております。

癌末期の患者様がどんどんとやせてしまうことは、どなたでも御存じです。御身内で御経験のおありの方も多いかと思います。お食事は比較的召し上がっているのに、御元気がなく寝たきりになり、お命も短くなってしまいます。とても悲惨で、御身内にとっては身を切られる思いです。やせるのは脂肪細胞や筋肉が壊されてしまうからです。癌などでやせてしまうことを悪液質といいます。

紀元前 400 年頃に御活躍なされた「ヒポクラテス」先生が初めて記述なされたようです。原因は「体中の液体などの悪い成分」と推察し、「悪液質」と命名しました。2400 年以上前の名医の推察はとても素晴らしく、近年になって「悪い成分」が血液からいくつも見つかっています。本当に「悪液」が原因だったということです。原因物質はいくつか考えられていますが、一番新しい研究は GDF-15 (成長分化因子 15 と訳されます) という蛋白質でしょう。サイトカインと呼ばれる免疫関連の蛋白質の一つです。癌がこの物質を作ります。血液の中で増えます(特殊な研究施設では測定することもできます)。血液の中でこの物質が増えると、食欲がなくなり気持ちが悪くなります。興味深いことには、GDF-15 に対する受容体(結合して作用する場所)は脳幹(大脳と脊髄の間にある小さな部分)にしかないそうです。つまり、大腸や肺など、体のどこかにある癌が、脳幹に作用して食欲がなくなってしまうわけです。このように転移や直接浸潤でないのに癌が悪さをすることを遠隔作用といいます。ちなみに、GDF-15 という物質は、妊娠中の「つわり」にも関係しているそうです。2024 年末のニューイングランド ジャーナルに GDF-15 を攻撃して癌の悪液質を治療する研究が発表されていました。近年流行しているモノクローナル抗体という治療薬で ponesimab といいます。癌のため悪液質のある(加えて GDF-15 高値の)患者様 187 名を 4 つのグループに分けて、偽薬、100 mg、200 mg、400 mg の注射薬治療を行っています。注射は 4 週に 1 回、皮下注射です。3 か月後の体重ですが、偽薬の方と比べて、100 mg の方は 1.22Kg、200 mg の方は 1.92Kg、400 mg の方は 2.81Kg 体重が多かったという結果でした。体重だけでなく、食欲や日常生活動作も改善されていました。癌の種類は、肺癌(小細胞癌以外の)、膵癌、大腸癌ですが、大腸癌の方が特に効果がありました。副作用は、治療薬の方では 70%に見られましたが、偽薬の方は 80%と、むしろ多かったそうです。副作用の内容は軽微です。この研究は、治験の第 2 相という段階です。この研究の大きな業績は、GDF-15 という物質が、癌患者様の悪液質の「原因物質」であることを証明していることです。つまり、GDF-15 に対する抗体治療により、悪液質の症状が改善しているからです。

癌そのものに対する治療(抗癌剤や免疫チェックポイント阻害薬など)も進歩していますが、吐き気、痛み、悪液質など、癌に伴う症状を和らげる治療が進歩していることも素晴らしいことです。

とても残念ですが、癌に対して治療ができない段階の方も多くいらっしゃいますから。

今後とも 老健施設はみんぐ を宜しくお願い申し上げます。